アニコム どうぶつNEWS
2025年1月号

ねこ に多い病気、そこが知りたい!

横隔膜ヘルニアって?

横隔膜が破れたり、胸腔と腹腔をつないでいる部分の穴が広がったりして、お腹の臓器が胸腔内に入ってしまう病気。

横隔膜は、胸腔(心臓や肺がある部分)と腹腔(胃や腸、肝臓といった内臓がある部分)とを隔てている膜で、横隔膜ヘルニアになると胸が圧迫され、痛みや息苦しさといった症状があらわれます。

主な症状

- 呼吸が浅い
- 元気がない
- 食欲不振
- 嘔吐下痢　など

横隔膜ヘルニアの症状は、その原因やヘルニアの程度、大きさや入り込んでいる臓器の種類によってさまざまです。事故による横隔膜ヘルニアでは、受傷後すぐに症状が見られることが多いです。肺や心臓が圧迫されて、胸の動きを調節している横隔膜が破れ、呼吸がうまくできなくなります。そのため、呼吸が浅く苦しそうにしていたり、動くことができずじっとしたりする様子が見られます。

主な原因

事故などによる外傷性と、生まれつきで発症する先天性によるものの2つの原因があります。

猫は、外傷性が多いとされています。
基本的に、老化による身体の機能低下で起こる病気ではありません。

外傷性の場合

外傷性の横隔膜ヘルニアは、交通事故や咬傷、高い所からの転落などで起こりますが、なかでも交通事故によるケースが多いようです。突如大きな衝撃が身体に加わり、腹部が強く圧迫されて腹腔の圧が上がり、その力で横隔膜の一部が破れてしまいます。破れた穴から、胃や腸、肝臓など腹部の臓器が胸の中に飛び出すことで発症します。

先天性の場合

外傷性より発生は少ないですが、横隔膜が生まれつき未発達なために横隔膜ヘルニアを起こしている場合があります。発生部位によって以下のようなパターンがあります。

- 腹膜心膜横隔膜ヘルニア
- 食道裂孔(しょくどうれっこう)ヘルニア
- 胸膜腹膜ヘルニア　など

検査と治療

外傷性の場合

できるだけ速やかに手術を行うのが理想ですが、外傷を受けた直後は呼吸状態が悪かったり、ショックを起こしていたりと、手術に耐えうる全身状態ではないことがあるため、猫の状態が安定してから行います。

先天性の場合

ヘルニアの穴が大きかったり、症状が重かったりする場合は外科手術をします。しかし、完全な整復ができない、あるいは再発する場合もあります。また、ヘルニアの状態が長い間続いていると、移動した臓器と周囲の膜が癒着してしまい、剥がすのが困難になることもあります。さらに、ヘルニアによって肺が長期間圧迫されてしまったために、完全にその機能を取り戻すことが難しい場合もあります。

予防

交通事故や落下事故等に遭わないように、猫を室内で飼う等の環境づくりが重要です。猫の横隔膜ヘルニアは、交通事故による外傷性が多いです。一旦猫が家から外に出てしまうと、飼い主がその様子を把握することは困難ですので、完全屋内での飼育を徹底することが予防につながります。また、屋内であっても高層住居で飼育している場合、うっかり窓を開けっ放しにして窓から飛び出し、地面に転落するという事故も考えられるので十分注意して下さい。先天性の横隔膜ヘルニアの場合、ならないよう予防するのは困難です。それでも若齢時に食が細いなどの気になる症状がある場合は早めに獣医師に相談し、検査を受けることで早期発見につながる可能性があります。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決!　●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込むと
2号(2ケ月分)無料!!

発行元:アニコム損害保険株式会社